

# 国

# 語

(配  
点)

1	30 点
2	40 点
3	30 点

## (注意事項)

- 1 問題冊子は指示があるまで開かないこと。
- 2 問題冊子は一ページから十七ページまである。検査開始の合図のあとで確かめること。
- 3 検査中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、静かに手を高く挙げて監督者に知らせること。
- 4 解答用紙に氏名と受験番号を記入し、受験番号と一致したマーク部分を塗りつぶすこと。
- 5 解答には、必ず**HBの黒鉛筆**を使用すること。なお、解答用紙に必要事項が正しく記入されていない場合、または解答用紙に記載してある「マーク部分塗りつぶしの見本」のとおりにマーク部分が塗りつぶされていない場合は、解答が無効になることがある。
- 6 一つの解答欄に対しても複数のマーク部分を塗りつぶしている場合、または指定された解答欄以外のマーク部分を塗りつぶしている場合は、有効な解答にはならない。
- 7 解答を訂正するときは、きれいに消して、消しきずを残さないこと。

次の文章を読んで、後の問い合わせに答えよ。

# 著作権の関係上、非公開

# 著作権の関係上、非公開

(大谷雅夫『万葉集に出会う』による)

(注1) 万葉集＝現存する日本最古の和歌集。 (注2) 舎人皇子＝天武天皇の皇子。

(注3) 部立＝作品の内容による分類のこと。

(注4) 田小屋＝田の番をするための小屋。

(注5) 穂積親王＝天武天皇の皇子。

(注6) 小川環樹＝一九一〇～一九九三。中国文学研究者。

(注7) 詩經＝中国最古の詩集。儒教の經典とされる五經の一つ。

問1 本文中の、スイ測<sup>①</sup>、意ジ悪<sup>②</sup>、抽シヨウ<sup>③</sup>、カ程<sup>④</sup>のカタカナ部分の漢字表記として最も適当なものを、それぞれアからエまでの中から一つ選べ。

①スイ測 ア 垂 イ 遂 ウ 推 エ 粋 ②意ジ悪 ア 示 イ 地 ウ 持 エ 治

③抽シヨウ ア 証 イ 象 ウ 生 エ 照 ④カ程 ア 仮 イ 科 ウ 課 エ 過

問2 本文中の、さまざまな<sup>a</sup>、清らかな<sup>b</sup>、滑稽な<sup>c</sup>、大きな<sup>d</sup>の中で、他と異なる品詞のものを一つ選べ。

a さまざまな b 清らかな c 滑稽な d 大きな

問3 本文中に、心なきものにも、心あらする<sup>(1)</sup>とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 動植物のほか、ものごとや考えなどあらゆるものを、人と同じような恋心を持つていているかのように捉えること。

イ 動植物だけではなく、すべての命あるものが、人と同じように感性を研ぎ澄ましているはずだと思うこと。

ウ 動植物のほか、ものごとや考えなどあらゆるものを、人と同じような心情を有しているかのように扱うこと。

エ 動植物だけではなく、すべての命あるものが、人と同じようにもともと知性を持っていると信じること。

問4 本文中に、露が愁訴に来た<sup>(2)</sup>とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 稲刈りが終わり、昨日まで宿っていた稻がなくなつたので、自分の居場所を失つた恨みを怒りと共に訴えようと白露がやつて來たということ。

イ 稲刈りが終わり田小屋の覆いが動いてしまつたので、自分の居場所がなくなつた恨みを一切遠慮せず訴えようと白露がやつて來たということ。

ウ 稲刈りが終わり、昨日まで宿っていた稻がなくなつたので、自分の居場所がなくなつたつらさを切々と訴えようと白露がやつて來たということ。

エ 稲刈りが終わり田小屋の覆いが動いてしまつたので、自分の居場所を失つたつらさを落ち着いて堂々と訴えようと白露がやつて來たということ。

問5 本文中に、非現実的、不合理きわまりない擬人表現をほしいままにしていたとあるが、どういうことか。次の説明文の□を補うのに最も適当ものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。<sup>(3)</sup>

〈説明文〉「動植物や、山、波、紐といった目に見える存在だけでなく、恋などの概念までも、□」。

ア 人間に憧れ人間同様の振る舞いをするものとして、歌の中で的確に表現していた

イ まるで人間のように振る舞うものとして、歌の中で自在に表現していた

ウ 人間の能力を超えた振る舞いをするものとして、歌の中で自由に表現していた

エ 理想的な人間のように振る舞うものとして、歌の中で大胆に表現していた

問6 本文中に、<sup>(4)</sup>古代以来の中国詩の擬人法の変遷がこのように説明できるとあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでのなかから一つ選べ。

ア 古代には擬人法はほとんど見られないが、時代が下るにつれて擬人法が見られるようになつたのは、古代の中国人が自然に対していだいた恐怖心が徐々に薄らぎ、自然への親しみが増していくからである。

イ 古代には擬人法はほとんど見られないが、三・四世紀ごろに擬人法が多く見られるようになつたのは、古代の中国人が自然に親しむ感情を徐々に増しつつも、依然として神への恐怖心を持ち続けたからである。

ウ 古代には擬人法はほとんど見られないが、時代の流れとともに擬人法が多く見られるようになつたのは、古代の中国人が神に対していだいた恐怖心が自然と消えていき、同時に自然への親しみの感情が増していくからである。

エ 古代には擬人法はほとんど見られないが、時代の流れとともに擬人法が多く見られるようになつたのは、古代の中国人が自然により親しむようになりつつも、自然への恐怖心は根強く残り続けたからである。

問7 本文中に、<sup>(5)</sup>古代日本人の心性とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 自然に対して恐れをいだく一方で、自然と人間との間に存在する隔たりがいつかは消えるものと信じる心のあり方。

イ 自然と人間の関係性は状況により変化するため、自然と人間との関わり方にそれほど積極性を持たない心のあり方。

ウ 自然に対して恐れをいだく一方で、自然への恐怖を徐々に克服していはずれは自然を征服しようと努める心のあり方。

エ 自然を恐れながらも親近感をいだき、自然と人間とが互いに交わり関わりあうことに寛容感を持たない心のあり方。

次の文章を読んで、後の問い合わせに答えよ。

# 著作権の関係上、非公開

# 著作権の関係上、非公開

# 著作権の関係上、非公開

(上出 寛子他

『今日、僕の家にロボットが来た。』

—未来に安心をもたらすロボット幸学との出会い—

による)

(注1) ポジティブ＝積極的なさま。

(注2) リスク＝危険。

(注3) 人為的＝人間の力が加わっているさま。

(注4) ハードディスク＝コンピューターなどのデータを記録する記憶装置の一種。

問1 空欄 **①**、**②**、**③**に入る語として適當なものを、それぞれ次のアからエまでの中から選べ。ただし、同じ記号は二回使わない。

ア したがつて イ しかし ウ なぜなら エ たとえば

問2 本文中の、**A**に当てはまる四字熟語として適當なものを、次のアからエまでの中から選べ。

ア 一目瞭然 イ 一長一短 ウ 一石二鳥 エ 唯一無二

問3 本文中に、相手が予測どおり行動してくれる「確からしさ」が高い とあるが、どういうことか。その説明として最も適當なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア こちらが前もって予想したとおりに相手が動いてくれる見込みが大きい。

イ 相手が相手自身の考えで行動を開始する時期がこちらの想像どおりになる。

ウ こちらの誘導に従つて相手が行動するはずだと期待する度合いが高い。

エ 相手がこちらの行動を事前に予想して対応してくる可能性が増している。

問4 本文中に、相手に信頼を向けてみると、確からしさを高める とあるが、どういうことか。その説明として最も適當なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 「あなたは私を信頼しているか。」と問い合わせることで、相手が自分に対し抱いている期待の強さを確かめつつ、相手の信頼を得たい意向を暗に伝える。

イ 「私はあなたを信頼している。」と伝えることで、その信頼に背く行動を相手が取りにくくして、自分が期待するとおりに相手が行動するように仕向ける。

ウ 「あなたは私の信頼に値するだろうか。」と尋ねることで、相手の自問自答を誘うと同時に、自分が相手と行動を共にするべきかどうかを慎重に判断する。

エ 「私はあなたを信頼しよう。」と宣言することで、こちらから相手に歩み寄る姿勢を見せつつ、相手の呼びかけにも応えようとする意思を示して親交を深める。

問5 本文中に、信頼が社会生活の不可欠な要素だと考えられている理由の一つは、樂観的に考へることに結びついています。<sup>(3)</sup>とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでのなかから一つ選べ。

ア 様々な分野の信頼性を高めることで、事件や事故に巻き込まれる可能性を低くして安全に生活することができる。

イ 様々な信頼の定義を考慮すれば、社会生活で起こりうる人為的なトラブルの発生を抑制できるかもしれない。

ウ 信頼がなければ、起ころるものもしない様々なリスクを予期して備えることが困難で、日常生活の支障が大きい。

エ 信頼することで、様々な危険を予期して余計な不安を感じることが少なくなり、安心して生活を送ることができます。

問6 本文中に、詐欺師が、相手が思いどおりに行動しない可能性をまったく無視して、樂観的にかまえていたとしても、相手を信頼していることにはなりません。<sup>(4)</sup>とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでのなかから一つ選べ。

ア 詐欺師は、相手が自分の思いどおりの行動を取らなかつたときに、相手に裏切られたと感じないから。

イ 詐欺師は、自分のうち自分の思いどおりに行動するはずだと考え、とくに焦ることはないから。

ウ 詐欺師は、詐欺師は、自分の思いどおりの行動を相手が取つたからといって、とくに喜んだりはしないから。

エ 詐欺師は、自分の思いどおりの行動を相手が取らなかつたときに、相手に失望してしまうから。

問7 本文中に、信頼と予測・期待の確かしさのあいだには感情の違いがあります。<sup>(5)</sup>とあるが、この感情の違いをすべて整理したものが表1である。

表1の□a、□b、□cに当てはまるものを、次のアからオまでのなかからそれぞれ一つ選べ。ただし、同じ記号は二回使わない。

ア 裏切り イ 満足 ウ 落胆 エ 感謝 オ 信頼

問8 この文章の内容を説明した文として最も適当なものを、次のアからエまでのなかから一つ選べ。

ア 工学的な信頼の定義をそのまま人間の信頼に当てはめることはできないが、信頼を定義する上で重要な感情の問題が工学的定義にも含まれており、軽視することはできない。

イ 信頼には、相手が良心的に行動することを期待して先にこちらから相手が取るべき行動の見本を示す戦略的信頼も含まれており、この期待が外れると人は裏切られたと感じる。

ウ 信頼とは、相手の行動に対する樂観的な期待と、相手の良心的な動機への期待の両方を含み、期待どおりに行動した際には相手に感謝するという心の動きを伴うものである。

エ 信頼は樂観的に考へることと深く結びついており、社会生活を安定した形で保つために必要不可欠なものであるが、その定義はまだ明確なもの

# 著作権の関係上、非公開

3

次の文章を読んで、後の問い合わせに答えよ。

がなく、哲学的な議論が必要である。

# 著作権の関係上、非公開

# 著作権の関係上、非公開

# 著作権の関係上、非公開

# 著作権の関係上、非公開

(ねじめ正一『泣き虫先生』による)

(注1) バッテリー＝野球でピッチャーとキャッチャーのこと。 (注2) バックネット＝打球が飛んで行かないようにキャッチャーの後ろに張る網。

問1 本文中に、卓也に<sup>(1)</sup>矛先を向けてきた。<sup>(1)</sup>とあるが、ここで泣き虫先生の気持ちの説明として最も適当なものを、次のアからエまでのなかから一つ選べ。

ア 班ノートの詩がよくできていた清田と卓也に詩を書く楽しさや大変さをもつと味わってほしいと思っていたので、卓也に作詞を教えて清田と競わせることで優れた作品を作らせようという気持ち。

イ 班ノートの詩がよくできていた清田に詩を書く楽しさや大変さをもつと味わってほしいと思い、卓也だけに期待するかのように振る舞うことで清田の対抗心をあおつて作詞させようという気持ち。

ウ 班ノートの詩がよくできていた清田と卓也に詩を書く楽しさや大変さをもつと味わってほしいと思っていたので、この機会に一人のうちのどちらかにはなんとしても作詞をさせようという気持ち。

エ 班ノートの詩がよくできていた清田に詩を書く楽しさや大変さをもつと味わってほしいと思い、作詞を引き受けたがらない清田に対して共同で作詞することを卓也から提案させようという気持ち。

問2 本文中の破線を引いた二つの段落「卓也も清田のミットの／＼守備も良くなつた。」の表現の特徴を説明したものとして最も適当なものを、次のアからエまでのなかから一つ選べ。

ア 卓也と清田が熱心に日々の練習に打ち込む姿が、丁寧な心理描写を交えた臨場感にあふれる文章で表現されている。

イ 卓也と清田の練習風景や清田の成長ぶりが、同じような言葉のくり返しによる歯切れのよい文章で表現されている。

ウ 卓也と清田がライバル関係にあることが、競うように練習に励む二人を対照的に描く文章によつて表現されている。

エ 卓也と清田のドラマティックな対立関係が、短い文を積み重ねていく緊迫感に満ちた文章によつて表現されている。

問3 本文中に、正真正銘のキャプテンに見えた。<sup>(2)</sup>とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア バックネット裏で鮮やかな捕球をした後も平然としている清田に、キャプテンと呼ぶにふさわしい頼もしさを感じたということ。

イ バックネット裏までためらいなくボールを追いかけ捕球した清田に、自分こそキャプテンだと主張する姿勢を感じたということ。

ウ バックネット裏での難しい捕球をやってのけた清田に、キャプテンなら当然身に附いているはずの高い技術を感じたということ。

エ バックネット裏までいちはやくボールを追いかけて見事に捕球した清田に、いかにもキャプテンらしい執念を感じたということ。

問4 本文中に、<sup>(3)</sup>その脇で清田が、読んでいる卓也の顔を真剣に見ている。<sup>(4)</sup>とあるが、ここでの清田の心理の説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 自分で作った詞のできばえにかなりの自信を持つており、読んだ卓也がほめてくれることを確信している。

イ 自分では作った詞のよしあしはあまり気にしていないが、卓也が熱心に読んでくれることに感謝している。

ウ 自分で作った詞のできばえを意識するあまり、もし卓也にけなされたら二度と作詞しないと決意している。

エ 自分では作った詞のよしあしがよくわからないので、卓也の評価を正面から受け止めようと覚悟している。

問5 本文中の、「<sup>(4)</sup>1年D組の歌」の歌詞について話し合っている次の会話文の[A]、[B]、[C]に当てはまるものを、後のアからカまでの中から一つずつ選べ。ただし、同じ記号は二回使わない。

生徒1 この詞は全体が五つの連でできているけど、第四連までに四季が季節順に割り当てられているよ。

生徒2 それぞれの季節の風が、季節のイメージに合った[A]で表現されているし、クラスのみんなを季節ごとに植物にたとえたのもかわいいね。

生徒3 第四連までの各連の最初の二行は、リズムが[B]で統一されているよ。

生徒2 最後の第五連は他の四つの連とちょっと違った形だけれど、それがかえって印象に残るね。

生徒1 この第五連で特に目立つのは[C]だね。詩や歌詞でよく使われるけど、これでこの歌もとても歌いやすそうになつていてるね。

生徒3 泣き虫先生を中心にクラスがよくまとまっている感じが伝わってくるし、今日も一日頑張ろうっていう氣にもなるいい歌詞だよね。

ア 擬人法 イ 五七調 ウ リフレイン（詩的反復） エ 倒置法 オ 擬態語 カ 七五調

問6 本文中に、卓也には複雑なうまさだつた。とあるが、それはなぜか。その理由の説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。<sup>(5)</sup>

ア 清田の詞を素直にいい詞だと評価する一方で、自分が作詞をしたとしてもこれほどの詞を作ることはできなかつたと思うと、清田に対してかすかに悔しさのようなものを感じたから。

イ 清田の詞を素直にいい詞だと評価する一方で、清田がこのまま作詞の魅力に取りつかれて野球に対する情熱をなくしてしまうのではないかと思うと、不安のようなものを感じたから。

ウ 清田の詞を素直にいい詞だと評価する一方で、清田が作ったこのやさしい詞を1年D組の歌としてこれから毎日歌うことになるのかと思うと、恥ずかしさのようなものを感じたから。

エ 清田の詞を素直にいい詞だと評価する一方で、自分ならもつといい詞を作りクラスのみんなを感心させたのにと思うと、自分が作詞しなかつたことに後悔のようなものを感じたから。

問7 本文から読み取れる清田に対する卓也の心情の説明として適當ではないものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 卓也が清田と行動をともにする中で清田の新たな面をいろいろと発見して、意外な素直さと眞面目さに驚いている。

イ 清田が自分に相談をもちかけ弱音を言つてくれたことに意外さを覚えると同時に、頼られてうれしいと感じている。

ウ 卓也が得意なことについて清田も高い能力を持つてゐるのに気づいて、清田と自分を比べる意識を持ち始めている。

エ 清田が周囲に対して全く協調しようと思つてないことが気がかりで、何とかしてクラスに溶け込ませようと思つてゐる。



